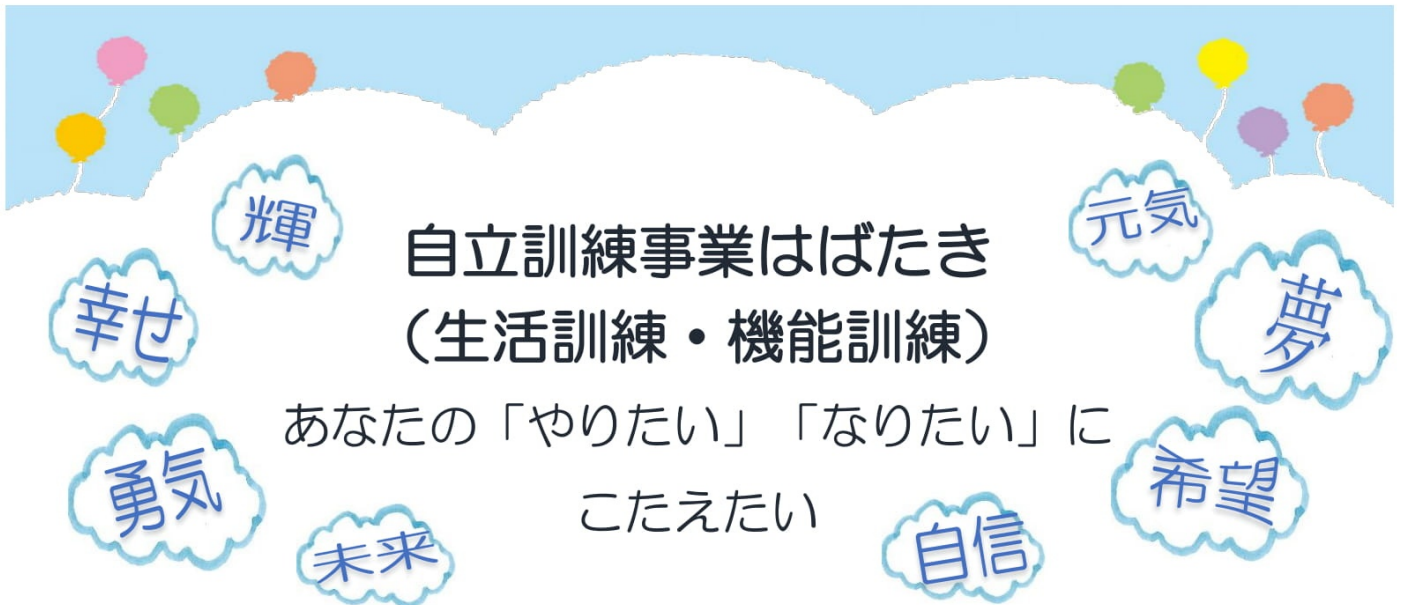




「自立訓練事業はばたき」では、病気や障害などの理由により、仕事ができなくなった、人と関わることに自信がなくなった、体力がおちてしまった、体調や生活リズムが不安定だから、決まった場所に通えるか心配など、不安なこと、心配なこと、困っていることに対して、一緒に向き合い、考えながら、取り組んでいくことができます。

利用者の定員は6名という少人数の環境です。生活訓練は月・水・金の週3日、機能訓練は火・木の週2日開所しています。週に一日、短時間から利用ができます。必要な場合は車で送り迎えすることができます。栄養バランスが整った給食を提供することができます。一人ひとりのペースや思いに合わせた個別、集団の活動ができます。

私たちは「〇〇をやりたい、〇〇になりたい」という方の、はじめの一歩のお手伝いをしています。見学も随時おこなっていますので、お気軽にお問い合わせください。

＜主な活動＞

生活訓練：公共交通機関を利用する外出、買い物、運動、創作、施設見学、調理など。

機能訓練：理学療法、作業療法、言語療法、公共交通機関を利用する外出、買い物、運動、創作、施設見学、調理、宿泊など。

＜ご利用者の声 ～50代女性～＞

うつ病になり20年、ダメな自分、生きている意味もないという考えに苦しみながら、悶々とした生活を送っていました。はばたきの職員、利用者に出会って、もう一度、輝いていた頃の自分を取り戻したいと思うようになりました。

自立訓練事業はばたきの利用者は、ある日突然、病気や事故により障害者となった中途障害の方が多く利用しています。企業で仕事をしていた方、一家の大黒柱であった方、主婦として家庭を支えていた方、これから結婚や仕事にと夢をふくらませていた方など、自分が障害者になるとは思ってもいなかった方々です。自立訓練事業はばたきの利用を開始する方に共通しているのは、障害受容に苦しんでいる、自己肯定感、自尊心の低さの三点です。私は障害の有無に関わらず、この三点は人が生きていくうえでとても重要な点だと考えています。また、笑うことも大切にしています。私たちはご利用者に寄り添い、身体も心も元気に、それぞれの人生を送れることを目標にしています。

「ともに創る、ともに生きる」、万葉の里が掲げている理念です。支援者主体、中心で事業を運営していくのではなく、ご利用者と一緒に福祉を創っていきたいと考えています。

(主任：佐藤 慎太郎)



平成30年度 事業報告

平成30年6月、万葉の里は新たな事業を開始しました。担当職員の努力や法人全体の職員の協力で何とか事業を軌道に乗せることができました。しかし、事業運営という視点では、特に新規事業について、職員の不足から開所できていない事業があり、事業収入が当初予算を大幅に下回りました。また、障害者センター事業では、職員の異動への対応など目の前の課題の解決が優先され、目標を見据えた長期的な取組の強化が課題として残りました。

1 法人の平成30年度計画における重点事業の進捗状況

(1)組織体制の確立
事業所が大きく2か所に分かれたことに伴い、法人の検討組織に新たに部門長・基幹相談支援センター長・事務長で構成する部門会議を設置し、部門会議の下に部門ごとの課長会を配置しました。これにより、部門長から課長⇒主任⇒職員と情報の伝達経路を明確にしました。

(2)事業運営の確立 ◆新規事業の開設

新規事業については、6月にKOCO・シャムを正式に開所し、

運営を開始しました。現在ケアホームこの葉の1ユニットが職員の不足から開所できていない状態です。また、生活介護事業この里についても当初想定した利用者数を確保できていません。これに伴い事業収入が大幅に不足し、法人事業運営全体に影響を及ぼしかねない状況になっています。

◆障害者センター事業

①通所事業における利用率の確保
障害者センターの自立訓練事業はばたき及び就労継続支援事業B型どーむについて、前年度に比べ利用率が低下しています。前年度は比較的高い利用率で推移してきましたが、自立訓練事業はばたきの機能訓練事業については年間平均利用率が前年98%が73%に、生活訓練事業では88%が55%に、就労継続支援事業B型どーむでは95%が72%となりました。

②重度障害者の自立

重度障害者の支援は、市の障害者センターの大きな役割の一つです。これを実現していくためには、不断に職員の支援力を向上していくことが求められます。特に重度障害者を受け入れている生活介護事業太陽の取組としては、個別支援計画に基づきモニタリングや日常的な活動での気づきを職員間で共有し、利用者の視点にたった活動を実施することを目標として、

取り組んできました。そのため課長・主任・職員のコミュニケーションを密にする機会を増やし、職員間の意識を一つにする取組を行ってきました。

③地域活動支援センター事業の拡充

計画相談について、専門相談員を確保し、新規の計画相談に対応することを目標にしました。新規の専門相談員の確保が難しく、また相談員を確保した後も、相談員のOJT等の研修や地域活動支援センター全体の体制の整備に時間がかかりました。

「相談から始まる支援」を目標に、質の向上に取り組み、計画相談との個別支援計画の連動を進めてきましたが、センター事業に関して相互の連携は整ってきています。

◆支援力の向上・職員育成

支援力の向上を目的に、倫理綱領やサービス提供基準を支援に活かす取組を行いました。サービス提供基準は、作成過程で行動指針としてまとめられ、「万葉の里で働くあなたへ」という冊子にまとめられました。今年度実施している倫理綱領の読み合わせとともに各職場単位で、次年度から読み合わせ等の取組を行い、職員の理解を深めます。また、実践研究の取組も継続して実施し、職員の主体

的な活動として定着し、成果を上げています。

2 今後に向けて・・・

平成30年度は、当法人として初めて、比較的大規模な事業所を開設しました。しかし、職員不足が大きく影響し、ケアホームこの葉の1ユニットが稼働できませんでした。また、生活介護も想定した利用者数を確保できませんでした。両事業とも早期に採算ベースに乗せなければなりません。懸案となっている体験型の短期入所事業も稼働させる必要があります。

また、平成30年度は新規事業所の開設と管理職の定年退職が重なり、大規模な職員異動を行いました。このため、組織運営や事業運営に苦慮することとなりました。

しかし、一方で職員の努力により倫理綱領に続いて、行動指針が出来上がり、職員育成の基礎が整いました。今後は各職場でこれらを生かし、支援を一層深める取組を進めていきます。

平成30年度は、以上のようにさまざまな課題が現出し、法人経営がやや不安定な状況になりました。法人としては、来年度が今後の法人運営にとって大変重要な年になると認識しており、今ある課題を解決すると同時に、事業経営の安定を図らなければならないと考えています。

平成30年度 事業活動収支計算書

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

勘 定 科 目			今年度決算額	前年度決算額	増減
サービス活動増減の部	収益	サービス活動収益計(1)	546,821,120	504,776,699	42,044,421
	費用	サービス活動費用計(2)	577,322,903	492,004,902	85,318,001
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-30,501,783	12,771,797	-43,273,580
サービス活動外増減の部	収益	サービス活動外収益計(4)	4,531,813	2,789,837	1,741,976
	費用	サービス活動外費用計(5)	1,473,551	949,166	524,385
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	3,058,262	1,840,671	1,217,591
経常増減差額(7)=(3)+(6)			-27,443,521	14,612,468	-42,055,989
特別増減の部	収益	特別収益計(8)	1,870,000	216,257,000	-214,387,000
	費用	特別費用計(9)	1,200,000	216,263,047	-215,063,047
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	670,000	-6,047	676,047
繰越活動収支差額の部		当期活動増減差額合計(11)=(7)+(10)	-26,773,521	14,606,421	-41,379,942
		前期繰越活動増減差額(12)	375,227,180	180,146,859	195,080,321
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	348,453,659	194,753,280	153,700,379
		基本金取崩額(14)	0	0	0
		その他の積立金取崩額(15)	0	180,473,900	-180,473,900
		その他の積立金積立額(16)	0	0	0
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	348,453,659	375,227,180	-26,773,521

平成30年度 貸 借 対 照 表

(平成31年3月31日現在)

単位 (円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	251,513,308	455,654,216	-204,140,908	流動負債	51,434,498	228,949,550	-177,515,052
固定資産	608,091,565	619,447,765	-11,356,200	固定負債	218,875,450	222,683,730	-3,808,280
				負債の部合計	270,309,948	451,633,280	-181,323,332
				純 資 産 の 部			
				基 本 金	10,000,000	10,000,000	0
				国庫補助金等特別積立金	230,232,166	237,632,421	-7,400,255
				その他の積立金	609,100	609,100	0
				次期繰越活動増減差額	348,453,659	375,227,180	-26,773,521
				(うち当期活動増減差額)	-26,773,521	14,606,421	-41,379,942
				純資産の部合計	589,294,925	623,468,701	-34,173,776
資産の部合計	859,604,873	1,075,101,981	-215,497,108	負債及び純資産の部合計	859,604,873	1,075,101,981	-215,497,108

はばたけ!!サンサンゆめまつり 開催します

日時 令和元年10月20日(日)
10時30分～14時30分

場所 国分寺市障害者センター

地域のみなさまとの交流と、より多くの方に障害者センターを知っていただくことを目的として開催いたします。模擬店をはじめスタンプラリーや子どもコーナーなどみなさまに楽しんでいただけるようなイベントを準備しています。詳細につきましては秋号にてお知らせいたします。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

季節のメニューあります!

喫茶いずみでは、梅雨が明け、本格的に始まる夏に合わせ、毎年ご好評いただいております「サラダうどん」を開始いたしました。

月替わりソフトクリームは、現在はメロンソーダフロート味、次回は黒ごま味となっております。

暑くなる日々に負けないよう、涼を取りにいらしてください。ご来店お待ちしております!

【喫茶いずみ】

営業時間 11時～15時30分



理事・監事が決定しました

新たに先の方々が理事・監事に選任されました。私も法人の運営にご尽力いただきたく、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

理事長	古橋 耕二郎
副理事長	稲垣 恵美子
常務理事	牛島 康子
理事	八橋 宏
理事	吉廣 賢二
理事	木下 介士
理事	柴田 洋彌
理事	作道 康介
理事	大谷 泰造
理事	坂田 晴弘
理事	坂井 泉
監事	市瀬 寛
監事	市瀬 寿子
監事	山崎 優子

(任期 令和元年6月13日～令和2年度に
関する定時評議員会の終結の時まで)

ご芳志

平成31年4月1日～令和元年6月30日

・石川 道子様

・匿名ご希望様

多数のボランティアの方にこそ来所いただき
ました。みなさまのご芳志に、こころより
深謝いたします。

編集後記

編集担当者のつぶやき

最近嬉しかったこと:

障害者センター周辺道路の掃き掃除をしているときに、第四小学校に通学する子どもたちの多くが「おはようございます」「きれいに掃除してくれてありがとう」と笑顔で声をかけてくれます。以前はこちらから「おはよう」と声をかけても反応なく、通り過ぎていくことが多かったのですが、毎朝見る顔として覚えてくれた様子で、積極的に挨拶をしてくれるようになりました。地域の「顔」として認めてくれたと思います。いい気持ちになりました。

ほっこりする場面を朝から地域の方たちにいただき、気持ちたちが穏やかになり元気が
です。

いつも子どもたちの笑顔が多くみられる
場面が身近にあること、そんな国分寺市が
大好きです。

今後ご利用者や地域のみなさまと笑顔
が多く、一緒に暮らしていけることを励み
として働いていければ嬉しいです。どうぞ
よろしく願っています。

生活介護事業太陽 津田 和久

発行所

郵便番号一五七一〇〇七二

東京都世田谷区祖師谷三ー一十七

ウェルドゥーラ祖師谷一〇二号室

特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

定価五十円